

# 札幌市立認定こども園 にじいろ

〒004-0832

清田区真栄 2 条 1 丁目11-20

## 【年長児と近隣幼保小との交流の経緯】

- ・平成24年度から、真栄小学校、国際大付属幼稚園、札幌あさひ保育園、認定こども園にじいろの3園1校の交流を計画的に行うようになり、現在に至っている。
- ・毎年、顔合わせをしながら1年間の交流の計画を話し合い、実践している。

## 【今年度の取組（年長児と真栄小学校との交流）】

### 7月 「小学校の先生の園訪問」

小学校の先生が年長児に会いに来るという機会をつくり、絵本を読み聞かせしてくれたり、一緒にゲームをしたりしてかかわる。

### 9月 「小学校プール体験」

小学校のプールを借りて遊ぶ。

### 10月 「6年生との交流」

6年生が園に遊びに来て、園児に絵本を読んでくれたり、一緒に遊んでくれたりする。

### 10月 「1年生との交流」

1年生の生活科の授業に年長児が加わり、ドングリを使って一緒に工作をする。

### 11月 「小学校発表会見学」

1年生の発表を見せてもらう。



6年生が絵本を読んでくれました

## 【成果】

### <幼児にとって>

- ・小学校の先生や年上の子どもたちが身近な存在に感じられるようになり、入学に対する安心感をもつことができた。
- ・学校のいろいろな施設を見ることで学校をイメージできるようになり、学校に興味をもつきっかけになった。
- ・小学生と触れ合う中で親しみや憧れの気持ちや優しくされる心地よさを感じることができた。
- ・小学校に行くという共通の体験から刺激を受け、園での遊びに活用するなど経験が広がった。

### <保育者にとって>

- ・小学校の先生と園の職員が互いの子どもの成長を願って交流することで保育や教育の理解をすることができる。
- ・園の存在を地域に知ってもらうことができる。

## 【考察】

### <幼児にとって>

- ・小学校の先生の訪問は、事前に幼児が親しんでいる絵本や遊びの内容を打ち合わせることで安心したり、より親しみを感じ、小学校の先生のイメージをもつことができる。一人一人の幼児と関わる時間はあまりもっていないが、丁寧に声をかけてくれ、幼児にとっては貴重な時間となっている。
- ・小学校に行く機会をいろいろな形で体験できることで小学校生活に期待をもつことができている。

### <保育者にとって>

- ・地域の小学校が連携の核となって進めてくれていることで、継続した連携ができ、互いの実情や子どもの実態に考慮しながら計画を立てることが有効である。また、学校側の計画に任せることが多くなりがちなので、互いの子どもたちの育ちにつながるように改善点などについても継続して伝えあうようにしたい。更に、今後は、園での学びが小学校での学びにどのようにつながっているのか連続性についても話し合っていくことができるよう連携を進めていきたい。



1年生が秋の素材を使って  
いろいろな遊びを教えてくださいました

# 学校法人 札幌国際大学 札幌国際大学付属幼稚園

〒004-0813

清田区美しが丘3条1丁目2-1

## 【真栄小学校との連携に至る経緯】

- ・真栄小学校と認定こども園にじいろの2園が札幌市より「読書推進事業」の指定を受けたことを機会に連携が始まった。
- ・現在の連携は、札幌あさひ保育園も含めた3園1校で継続している。

## 【連携先との関係】

- ・真栄小学校へ進学する子が例年多く、卒園児も多く在籍している。
- ・幼稚園の近隣のということで、身近に感じられる小学校である。
- ・継続的な交流の流れが定着し始めているので、他学年の園児も興味や関心をもち始めている。

## 【連携の様子】

- ・5年生が来園し、絵本の読み聞かせやゲームなど企画し、年長児と交流
- ・小学校の運動会練習見学
- ・小学校内の見学など

## 【成果】

- ・小学校へのイメージが具体的になったことで、今まで以上に期待が膨らむようになった。
- ・小学生に対して憧れの気持ちが強くなり、話の聞き方や言葉なども意識をしている姿が見られるようになった。

## 【考察】

- ・小学校に対して、そのような場所か分からず不安な子もいたが、実際に見て、関わることで安心感につながっていた。
- ・卒園児の様子も実際に見ることができ、卒園後も地域で子どもたちを見ていくという想いが強くなるように感じた。



小学生とゲームを楽しんでいる様子



感想を伝え合っている様子

# 認定こども園 北野しらかば幼稚園・保育園

〒004-0865

清田区北野 5 条 2 丁目 2 -20

## 【小学校との連携】

平成28年度は近隣の小学校 4 校へ、年長組が訪問。  
主に 5 年生と交流を図る。

《北野小学校との交流（全 4 回）》

- 1 回目… 5 年生が幼稚園訪問。
- 2 回目… 年長組が学校訪問。 5 年生と交流。
- 3 回目… 5 年生が幼稚園訪問。
- 4 回目… 年長組が学校の学習発表会児童観覧日に訪問。

5 年生の発表を見学。

《北野台小学校との交流（全 2 回）》

1 回目・2 回目とも年長組が学校訪問。 5 年生との交流。

《北野平小学校との交流（1 回）》

年長組が学校訪問。 5 年生と交流・1 年生と一緒に授業に参加。

《清田小学校との交流（1 回）》

年長組が学校訪問。 5 年生と交流。

※平成26年度は保育教諭が小学校を訪問。 1 時間目～ 5 時間目までの授業を見学。平成27年度は保育教諭が小学校を訪問し、授業見学と15分間の時間を頂き、保育教諭がパペットを使ったお話をを行う。

## 【成果】

- ・子どもたちが学校を訪問したことで、小学校に対して期待がもてた。また、5 年生と関わりを深めたので、来年 1 年生と 6 年生になった時に安心感が出来、顔見知りになれたと思う。
- ・学校の先生と情報を共有できる。小学校へ入学する子どもの様子を伝えることができる。

## 【考察】

子どもたちが学校に対してとても楽しみにしており、不安よりも期待をもっている。5 年生がとても優しくしてくれたので、安心した様子。

学校の先生方にも子どもたちを見て頂けたので入学に際しての参考になったのではないか。

## 【写真】



ウエルカム  
ボードを用  
意して頂き  
ました。



大根抜きゲ  
ームをして  
いるところ

## 【写真】



【5 年生とお絵描き】

# 札幌市立三里塚小学校

〒004-0802

清田区里塚 2 条 6 丁目 7-1

## 【里塚幼稚園との連携】

里塚幼稚園との交流は、今年で3年目となるが、年長児と5年生が年2回、相互に訪問し合う交流を行っている。初回は小学生が幼稚園を訪問し、朝の会を見学した後、ゲームと一緒にしたり、お互いの発表を見たりという交流を行った。2回目は、年長児が本校を訪れ、5年生と園児と一緒に学校探検や、ゲームをしたり、お互いの発表を見合ったりして、親交を深める取組を行った。



【幼稚園の朝の会を見学する  
5年生】



【ホールでの園児のバルーン  
発表】



【園児と5年生と一緒に  
体操を行った】

## 【成果】

- ・5年生は園児と一緒に活動するのをとても楽しみにし、張り切って交流会の企画・当日の進行を行う様子が見られた。来年度は新6年生となるため、交流を行うことで、最高学年としての自信や期待感を獲得する活動となった。
- ・2回の交流を行うことで、5年生としては、園児は、どのくらいのことのできるのか、また、好きなゲーム等の実態等を知り、1回目の交流を2回目の交流に生かすことができた。
- ・交流を通じて、幼稚園と小学校相互の理解が深まった。

## 【考察】

- ・2回目の交流では、5年生が1回目の交流を生かして計画を立てていた。当日は、園児と5年生が仲良く手をつないで学校探検を行い、1年生の学習の様子を一緒に見学したり、いろいろな教室を案内したりして、幼稚園児にとって、入学に期待感をもてるような取組を盛り込んでいた。
- ・里塚幼稚園の園児は大変行儀が良く、整列や座る指示に素早く反応でき、靴や楽器を置く際もきれいに並べて置くことができていた。小学校に入学すると、幼稚園では、年長さんとして大人扱いされていた園児も小学校に入学すると一番下になり、少々、幼く接してしまうところがある。園児の実態と踏まえ、よりスムーズな幼小の連携の在り方を探っていきたい。



【学校で5年生が器楽演奏を  
発表した】



【体育館で猛獣狩りをして  
楽しんだ】



【園児の鍵盤ハーモニカ  
による2重奏の発表】

# 札幌市立北野小学校

〒004-0863

清田区北野3条2丁目10-1

## 【北野しらかば幼稚園との連携】

今年度は、校区にあり500mほどの近距離にある認定こども園北野しらかば幼稚園との連携をより有効なものにすることができた。これまでも、3学期に1年生と年長児の間で冬の遊び交流を行ってきたが、新たに2学期に、5年生と年長児との活動交流を実践した。

5年生の北野っこタイム（総合的な学習の時間）の中で、異文化との関わりとキャリア教育の2つの面から以下のような計画を立てて取り組んだ。

9月28日	5年生幼稚園訪問（主任の話・園児観察）
10月5日	年長児小学校訪問（5年生企画遊び）
10月中旬	5年生幼稚園訪問（学級ごと小集団遊び）

初めての活動ということもあり、イベントに終わらず問題意識や目的意識をもって取り組めるようにと、3回の交流を設定し丁寧に進めていった。

5年生児童の意識としては、「幼稚園の先生の仕事について知りたい」「来年6年生としてお世話をする園児について知りたい」の2つである。初めての訪問では、緊張で表情も硬かった5年生の子どもたちも、「どうすれば年長の園児を楽しませられるか」と工夫を考えて計画する中で、自信をつけて取り組んでいった。

2回目の交流では、園児と共に体育館いっぱいに集団遊びを繰り広げて楽しむことができた。3回目の交流では、ハードルを上げて一人一人が責任をもって小集団に関っていく活動を行ったが、個の頑張りや仲間同士の助け合いによって、しっかりやりとげることができた。

## 【成果と考察】

1年生のお世話の「お世話」という言葉に違和感を感じていたが、幼稚園の先生の仕事の意味を考えて取り組む中で、お世話の本当の意味に近付けたように思う。「楽しませる」から「育てる」という見方に変わっていくことで、新年度4月のスタートが新6年生にとっても、新1年生にとってもより価値あるものになっていくことと信じて、更なる焦点化を考えていきたい。



表情が硬い初めての交流



体育館いっぱい笑顔が



余裕をもって仕切る

「手をつなごう みんな友達」の学習を通して

。ミニ先生になってみて、その遊びでみんな楽しめるだろうかとか、「喜んでくれるだろうか」とか、テーマ(目標)にもあつたように「だからのためになにをやる」ということを大切にしなければいけないな、たり、体調かんりもしなきゃいけないから、先生って大変だなあと思った。あと、幼稚園の先生ってすごいと思った。

「手をつなごう みんな友達」の学習を通して

10月13日の日でも、いぐみの子たちと仲よくなれた。こんどは6年生になって1年生のお世話があるから、この手を繋ごう、みんな友達、の勉強をいかしてがんばりたいとおもいます。みんなでこのことをやっ、てようちえんのこと、係の仲間たちともまじりながか、ま、たと思ひます。

# 札幌市立北野台小学校

〒004-0864

清田区北野 4 条 5 丁目 4 番 80 号

## 【認定こども園北野しらかば幼稚園との連携】

現在の 5 年生が最高学年の 6 年生になった時にお世話をする年長園児を小学校に招き、幼小交流会を開きました。

小学校の子どもたちは 6 年生に進級してすぐに新 1 年生のお世話活動を始めます。5 年生のうちから新 1 年生と接する機会を設けることでお互いに知り合いとなって 4 月から自信をもって新 1 年生に接することができるようになると考えました。

今年度は、7 月と 12 月に 2 回の交流を行いました。7 月の交流会では折り紙と学校案内をしました。事前に新 1 年生が興味をもてるような折り紙を考え、作ってプレゼントしたり一緒に作成したりする活動を通して、まずはお互いのことを知ることを目標としました。活動終了後は手をつないで校内を案内しました。12 月の交流では絵本の読み聞かせの活動を行いました。1 回目の交流で新 1 年生のことを少し理解した 5 年生が絵本を選び、おもてなしの心でお迎えしました。



## 【平ヶ岡幼稚園との連携】

学習発表会の時期に平ヶ岡幼稚園の新 1 年生をお招きして現 1 年生児童の練習の様子をご覧いただきました。真剣な練習の様子をご覧いただくことを目的とした活動で、児童園児ともに良い刺激を受けることができました。



## 【成果】

- ・総合的な学習の時間の中で準備・活動・振り返りを行うことにより、一貫した学習として取り組むことができた。
- ・複数回の活動として取り組むことで相手意識を高めながら学習を進めることができた。
- ・具体的な園児の姿を思い浮かべ、楽しんでもらえる工夫を考えることができた。
- ・学習発表会の練習では子ども同士の個別の交流は設けることができなかったが、園児も児童もお互いに緊張感をもって練習・見学に臨むことができた。

## 【考察】

- ・他の幼稚園や保育園との交流会も計画し、1 年間を見通して、5 年生が活動できるようにしていきたい。
- ・幼稚園や保育園のお散歩の途中に学校に立ち寄ってもらうことや、運動会の練習見学などの機会を増やし、日常的に連携できるようにしたい。
- ・職員同士の交流の機会を設け、日常的な意思疎通を図る。

# 札幌市立北野平小学校

〒004-0862

清田区北野 2 条 3 丁目 7-1

## 【認定こども園

北野しらかば幼稚園・保育園との連携】

### <平成26年度>

- ・幼稚園教諭が小学校での1日を体験
- ・朝の活動～帰りの会まで  
1・2・5年生の授業参観

### <平成27年度>

- ・幼稚園教諭は1年生を相手に道徳を  
ペープサートで
- ・1年生担任は国語 詩
- ・授業後に話し合い

### <平成28年度>

- ・幼稚園児と1、5年生が交流
- ・5年生：自分たちが考えた交流（学校探検、だるまさんが転んだなど）
- ・1年生：出席を取る、手遊び歌
- ・幼稚園教諭によるペープサート



【学校探検で園児を案内】

## 【成果】

### <担任にとって>

幼小のスムーズな接続

- ・幼稚園の指導観、子ども観がわかる
- ・個別に配慮が必要な子の情報が入りやすくなり、相談がしやすくなる。

### <1、5年生にとって>

成長を促す有効な機会

- ・頼られることでの自己有用感
- ・相手の立場を考える機会
- ・進級への期待感



【体育館でゲームの説明】

## 【考察】

- ・継続することで、園児にとっては、入学への不安が解消され、期待感をもつことができ、1、5年生にとっては、成長を促す有効な機会となった。
- ・今後継続していく時には、幼・小ともに時間の確保や教育課程に位置付いた計画的な交流が必要となる。計画の段階からの連携の強化が求められる。

## 【アルプス認定こども園・平ヶ岡幼稚園との連携】

### ① 連携に至る経緯

平成26年度まで、校区内にある「アルプス認定こども園」の年長児が、小学校の様子を知りたいを目的に、夏休み期間中に本校の施設を見学していた。

平成27年度は、連携を一步進めて、2学期に年長児を招待して、5年生のよさこいの発表や校内案内などで交流した。当日までの計画などにも時数が必要となるため、平成28年度から「総合的な学習の時間」の単元として教育課程に位置付けることとした。

さらに平成28年度は、「清田区幼保小連携推進協議会」での交流において、校区内の「平ヶ岡幼稚園」とも交流活動を行うことが決まった。

また、平成27年度からは、2月の一入入学の際に、5年生が計画や練習なしで、幼児との遊び・トイレのお世話・玄関案内を行っている。

### ② 今年度の連携の様子

平成27年度は、時数の保障がなかったため、教師主体で行っている部分が多かった。平成28年度は、総合的な学習の時間の中で、「どのような交流をするとよいか」を子どもたちが話し合い、計画を立てた。本校の5年生の人数と2園の年長児の人数がほぼ同じだったため、一対一でペアをつくり、校内をオリエンテーリングしたり、ゲームで交流したりすることとなった。体育館ではペアの子のペースに合わせて走ったり、特別教室に用意したクイズでは、理解度に合わせてヒントを出したり相手を意識した活動が展開された。



【体育館でのジャンケン汽車ポッポ】

### 【成果】

4月から6年生として、中心となって1年生と関わる5年生にとって、新1年生の実態を知る貴重な体験となった。平成28年度の6年生は、朝のお世話で「どうすれば相手が喜ぶか」を想定して準備を進めることができた。学校生活アンケートでは、本校の活動の柱の一つである縦割り活動「ふれあい活動」が『楽しい』と答えた6年生の割合が67%から84%へ増加した。

新入生にとっては、「あの時のお兄さん・お姉さん」がいることで、安心して学校生活をスタートできることにつながっている。

9月には6年生が企画し、1年生を招待して「前期頑張ったね集会」を行うなど、日常的な交流が続いている。

### 【考察】

総合的な学習の時間として教育課程に位置付けることで、子ども主体の学習となった。今後も、園と連携をとりながら、よりよい交流の在り方を探っていききたい。

# 札幌市立美しが丘小学校

〒004-0812

清田区美しが丘2条5丁目1-1

## 【『園児来校』の連携】

1学期の7月、5年生は「美しが丘幼稚園」と「国際大学付属幼稚園」の園児を同時に招いての交流を実施した。

まずは、校内の案内からスタート。理科室では人体模型等の展示物に、音楽室では数多くの楽器に、体育館ではその大きさに、目を丸くしながら驚く園児たちの様子が見られ、微笑ましい限りである。その後、体育館にて遊びを通しての交流を行った。

10月には、「あさひ保育園」からの要望もあり、同様の活動を実施した。

2月にも再度園児を招き、近づく入学を前に園児たちへ小学校生活の説明活動を行う予定である。



集団遊び（写真は『貨物列車』）の場面。園児たちの思いも推し量りながら、優しく遊びをリードする5年生。

## 【『児童訪問』の連携】

例年、5年生は「美しが丘幼稚園」と「国際大学付属幼稚園」への訪問も実施している。今年度については、互いの行事の都合上、「美しが丘幼稚園」のみへの訪問となった。

訪問日には、5年生児童が事前に計画・準備した「本の読み聞かせ」「紙芝居」「折り紙作り」「集団遊び」を行い、一方の園児たちが発表会に向けて練習した歌や踊りを披露し、ほのぼのとした交流活動が見られた。



宝探しゲームの一コマ。教室に隠された宝を発見した園児を、みんなに紹介してたたえる5年生。

## 【『園児来校』『児童訪問』の成果】

小学校への来校は、園児にとって小学校入学への期待をふくらませると同時に、小学校生活に向けての心構えをもつきっかけとなっている。

一方、児童にとっては自らが主体となって活動を進めることが求められ、「想定して計画する力」「様々な手法で準備する力」「物怖じせず進行する力」が培われるものと考えられる。

## 【考察】

一昨年度は冬場のみだった交流を、昨年度からは秋にも設けて年2回の実施とした。今年度は連携体制をさらに進め、早くから、且つ、年間を通じての関わりを意図し、夏、秋、冬の年3回の交流を計画した。子どもたちの関わり合い方がますます広がり、深まることを期待している。

4月からは、この子たちが『6年生&1年生』として「お世話する・される」関係となる。この関係づくりのスタートとして、こうした交流活動は大変有効であり、継続・発展させたい。最適なものを考案していくことを念頭に置き、活動の時期や内容を固定化しないことや、幼稚園・保育園の先生と事前にこまめに連絡を取り合うことなど、今後も改善に努めたい。

# 札幌市立平岡公園小学校

〒004-0882

清田区平岡公園東5丁目9-1

## 【保育園・幼稚園との連携】

### ① なかよしキャンプ

- 平成23年度より3年間、幼保小連携モデル事業「なかよしキャンプ」にモデル校として参加し、平成26年度からは、幼保小連携自然体験活動「なかよしキャンプ」の実施校に認定された。新年度に同じ小学校に通うことになる幼児（5歳児）と、児童（5年生）が一年前から交流を深めることを目的に、年間5回の活動が行われている。平成28年度は、本校の5年生12名、本校に入学予定の園児24名が参加し、一緒にうどん作りやレクレーション、宿泊などの自然体験活動を通して関わりを深めている。



### 「なかよしキャンプ」

【平岡みどり児童会館でのうどん作り  
～みんなで作ると楽しいね！】

### ② 生活科・総合的な学習の時間

- 2年生は、生活科「まちたんけん」の学習では、近隣の保育園を訪問し、園の様子を見学したり、保育士の方にインタビューしたりするなどの活動を行っている。
- 5年生は、総合的な学習の時間「小さい子と仲良くなろう」の学習で、保育園・幼稚園との交流を通して、園児に学校の中を案内したり一緒に遊んだりするなどの関わりをもっている。

## 【成果】

- ①、②どちらの活動においても、自分より年齢が下の子どもたちと関わることで、相手を思いやる気持ちが育っていると感じる。相手の目の高さまで下がって会話をしたり言葉の使い方を変えたり、どんな活動をすれば喜んでもらえるかを工夫したりなど、園児のことを考えて活動する気持ちが高まっている。
- 5年生は、6年生になったときに入学してくる1年生のサポート活動をととても楽しみにしている。園児の様子を知り期待や見通しに繋げるという意味でも、5年生の時に「なかよしキャンプ」や学習の中で園児とふれあえることは、とても有意義な活動となっている。

## 【考察】

- 「なかよしキャンプ」については、平成30年度まで実施校となっている。5年間の継続実施を通して、豊かな心と健やかな身体を育み、子どもたちが共に喜びを実感できるよう取り組んでいきたい。
- 2年生や5年生の生活科・総合的な学習の時間の取組は、内容を改善しながら継続して行っていく。今年度は、幼稚園と保育園との交流を同日にし、実施時間を長く確保できたことで、より充実した関わりをもつことができた。

### 「5年生総合的な学習の時間」

【遊んでいるうちにすっかり仲良し！】

